

八尾・よろず考古通信

八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌 年2回発行



令和元年度の主な発掘成果から

令和元年度に市域で実施した埋蔵文化財発掘調査では多くの成果がありました。

市域南部の東弓削遺跡では、弥生時代後期の土坑などを発見しました。また、中央部の東郷遺跡では、古墳時代初頭(3C)の土坑が、南西部の木の本遺跡では、古墳時代前期(4C)の土坑などが見つかって居住域の存在が明らかになりました。さらに、北部の西郡遺跡では、飛鳥時代後期の土器や鎌倉時代の羽釜を井戸枠とした井戸が見つかっています。



図1 調査位置図

弥生時代後期前半と古墳時代前期前葉のムラ跡を発見！

東弓削遺跡〈第35次調査〉 (八尾木一丁目)

東弓削遺跡は、八尾市南部に位置する弥生時代中期前葉(前2C)～室町時代(15C)に至る複合遺跡です。

地理的には旧大和川の主流であった長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地に広がっています。

八尾木一丁目で、分譲住宅建設に伴う発掘調査を実施しました。調査の結果、弥生時代後期前半(1C)と古墳時代前期前葉(4C)の遺構・遺物を検出しました。

弥生時代後期前半(1C)の遺構としては、1区の第2面で壺が出土した土坑(SK9)や2区の第2面で器台が出土した土坑(SK13)(写真1)があります。

古墳時代前期前葉(4C)では、1区の第1面で土坑(SK1)が見つかり、古式土師器の小形丸底壺が出土しました。そのほか、遺物包含層から古代の遺物、中世の瓦器椀などが出土しています。

今回の調査により、当地一帯が長期間にわたり居住域として利用されていたことがわかりました。



写真1 器台出土状況(弥生時代後期前半)

古墳時代初頭～前期のムラ跡を発見！

東郷遺跡<第 85 次調査> (光町一丁目)

東郷遺跡は、八尾市のほぼ中央北西部に位置する弥生時代中期後葉(前 1 C)から近世(18C)に至る複合遺跡です。

今回の調査地は、東郷遺跡のほぼ中央部にあり、近鉄八尾駅の北約 150mに位置しています。

周辺の調査では、第 44 次調査で古墳時代初頭～前期(3～4 C)および平安時代後期(12C)の遺構が、第 71 次調査で古墳時代初頭～前期の遺構が、また第 28 次調査では平安時代後期の遺構が確認され、各時期の居住域の存在が明らかになっています。

調査の結果、古墳時代初頭～前期(3～4 C)の土坑 16 基(SK101～116)、小穴 9 個(SP101～109)、溝 4 条(SD101・102・104・105)、古代の溝 1 条(SD103)を検出しました。

このうち、古墳時代初頭～前期の遺構は全域にわたって確認されており、居住域の存在が明らかになりました(写真 2)。特に北東部で検出した土坑(SK101)(写真 3)からは、完形近くまで復元可能な古墳時代初頭の庄内式期の壺・甕や、西部瀬戸内地域から持ち込まれた壺などの他、木製品では、腰掛や板材が良好な状態で出土しました。また、古代の溝(SD103)は、幅約 7.0m で比較的幅が広く南東から北西へ延びていることが判りました。



写真 2 調査区全景(北から)



写真 3 SK101 内二重口縁壺出土状況(古墳時代初頭)

古墳時代前期のムラ跡などを発見！

木の本遺跡<第 31 次調査> (空港一丁目)

木の本遺跡は、八尾市の南西部に位置する八尾空港一帯と、その北西部に広がる弥生時代前期中段階(前 3 C)～鎌倉時代(13C)に至る複合遺跡です。

八尾空港北側の空港一丁目で、倉庫建設に伴う発掘調査を実施しました(写真 4)。2.5～3.0m 四方の調査区を 19 箇所(1～19 区)に設定し、調査を実施した結果、12 区で平面が隅丸方形を呈する古墳時代前期の土坑が検出されました(写真 5)。土坑からは古墳時代前期中葉(4 C 中)に比定される古式土師器が多量に出土したほか、厚さ 2cm ほどの薄い板状の石材が出土しました。この石材は、紅色を帯びた紅簾石片岩(こうれんせきへんがん)と呼ばれる和歌山県紀ノ川や兵庫県沼島で露呈しているもので、淀川流域に位置する前期古墳の竪穴式石室の構築石材として利用される例が報告されています。

今回の調査で確認した、古墳時代前期中葉(4 C 中)の居住域の存在や遠方から持ち込まれた石材から、広範囲におよぶ地域間交流を行った集落であったことが推定されます。



写真 4 調査区全景(北から)



写真 5 12 区検出土坑(古墳時代前期中葉)

西郡廃寺周辺で飛鳥時代～鎌倉時代の居住域を確認

西郡遺跡〈第4次調査〉(泉町二丁目)

西郡遺跡は八尾市の北西部に位置する弥生時代後期前半(1C)～室町時代後期(15C)の複合遺跡です。

泉町二丁目で、工場建設に伴う発掘調査を実施しました。調査では、飛鳥～奈良時代(7～8C)の遺構や鎌倉時代(13C)の遺構を確認しました。

飛鳥～奈良時代のものとしては土坑2基(SK1・2)を検出しました。土坑内からは、土師器や須恵器などが出土しています。これらは、本調査地から北西部に存在したと推定される西郡廃寺に関連した遺構や遺物であった可能性があります。

鎌倉時代後期(13C後半)の遺構としては、土師器の羽釜を2段重ねて井戸枠とする井戸(SE1)(写真6)が見つかりました。枠内からは鎌倉時代後期に比定される土師器や瓦器などが出土しました。中央部では、南北に直線にのびる溝(SD1)を確認しました。この溝からは鎌倉時代後期以降の遺物が出土しており、当時この付近が居住域であったことが明らかになりました。



写真6 羽釜積上げ井戸(鎌倉時代後期)

穴太廃寺を中心とした中世集落を発見！

宮町遺跡〈第5次調査〉・穴太廃寺〈第1次調査〉(宮町三丁目)

宮町遺跡は宮町一～三丁目に広がる平安時代後期以降の遺跡です。また、穴太廃寺は、宮町一丁目に所在する穴太神社の北側に存在した平安時代後期～江戸時代の寺跡と推定され、これまでの発掘調査で、平安時代後期(12C前半)から江戸時代(18C)の瓦などが確認されています。

宮町三丁目で発掘調査を実施した結果、鎌倉時代後期(13C)の居住域を構成した遺構・遺物を検出しました(写真7)。主な遺構としては、曲物を積上げて井戸枠とする井戸2基(SE101・102)や土坑、溝などがあります。なかでも、土坑(SK146)は、検出長7m前後、検出幅2.5m前後を測る大形の土坑で、内部から13世紀後半に比定される大量の土師器皿・瓦器碗などが出土しました。また溝(SD201)、土坑(SK207・208)からも同時期の遺物が大量に出土しています。(写真8)

なお、鎌倉時代中期の建長4(1252)年に、大和西大寺の叡尊が「河内泉福寺」に来訪して55人に菩薩戒を与えたとされる記録(『感身学正記』)があります。穴太廃寺が泉福寺と推定すれば、この時期には西大寺末寺の律宗寺院となっていたと考えられ、今回検出された鎌倉時代の集落跡は、穴太廃寺(泉福寺)に関連した集落であった可能性が高くなりました。



写真7 1区全景



写真8 土坑(SK207)検出状況

西部瀬戸内系の土器を発見！—東郷遺跡第85次調査の成果から—

調査では、古墳時代初頭～前期(3C～4C)の遺構が多数見つかリ、居住域が広がっていることが判りました。中でも土坑(SK101)(写真9)からは古墳時代初頭中葉(3C前葉)の庄内式土器とともに、西部瀬戸内系の複合口縁壺(写真10)が出土しました。

複合口縁壺は、縦長の体部で、底部は丸底ぎみではあるが平底を呈しています。また、頸部は短く直立し、口縁部は外反したのち屈曲し内傾して延びています。この器形の複合口縁壺は、西部瀬戸内地域(大分県、愛媛県、山口県、広島県)に分布しています。特に今回出土した壺は、西部瀬戸内の中でも、周防(山口県南東部)か長門(山口県北西部)出土の壺に形状が似ています。市域での類例は久宝寺遺跡などで複合口縁壺の口縁部のみ出土はありましたが、今回、全容が判る壺が出土したことで、交流地域がわかる具体例として注目されます。



写真9 東郷遺跡第85次調査SK101遺物出土状況



写真10
東郷遺跡第85次調査
西部瀬戸内系複合口縁壺

編集後記

「コロナ禍」。今年の春までは聞きなれない言葉でしたが、今では、流行語ともいえる言葉になりつつあります。恐ろしいウイルスが世界中に蔓延する世の中、飛沫感染を抑えるため、手洗い、消毒はもちろん、マスクの着用が当たり前になり、私たちの日常は変わりつつあります。職場や、学校などではリモートによる遠隔会議や授業を採用するところが多くみられ、社会生活に変化が起きています。

こうした疫病の発生は過去何度も起こっており、その都度人類は英知をもってこの脅威と戦ってきました。今回も無事に乗り越えられるよう切に願っています。

KN



イベント情報

- ◆秋季企画展「やおの古墳時代(初頭～前期)ー3～4世紀のようすー」
内容：八尾市域から出土した古墳時代初頭～前期の遺物を中心に展示
期間：令和2年9月30日(水)～令和3年2月12日(金)
時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)
休館日：土・日・祝日・12月29日～1月3日(但し10月25日(日)、11月14日(土)・15日(日)、令和3年1月17日(日)は休日開館)
- ◆講演会「やおの古墳時代初頭～前期の河内の集落」
講師：西村公助(当施設学芸担当)
日時：令和3年1月17日(日) 八尾市文化会館4階研修室
午後1時30分～3時(先着40名、資料代200円)



八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌
『八尾・よろず考古通信 23号』
発行：2020年10月31日
八尾市立埋蔵文化財調査センター指定管理者
公益財団法人八尾市文化財調査研究会
〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目58-2
TEL・FAX 072-994-4700
E-mail：maibun_zyao@white.plala.or.jp

